

第 28 回法画像勉強会開催後記

令和 7 年 9 月 27 日、愛媛県医師会館において第 28 回法医画像勉強会を開催しました。参加者数 73 名（うち、ワークショップ同時参加 44 名）、プログラムは特別講演 2 題、指定講演 1 題、一般演題 12 題です。

午前には本勉強会では 3 回目となる死後画像読影ワークショップを行いました。今回のワークショップで特記すべきは使用可能な端末が 40 台と倍増されたこと及び新たな事例が追加され死後画像読影ガイドライン（2025 年版）に沿って CQ 番号が振り直されたことです。十分な台数の端末が準備されており、事前申し込みでは端末操作をしないモニター参加を予定していた参加者も当日ハンズオンで参加ができるようにもご配慮頂きました。多くの参加者が Viewer を自ら操作して CT 画像の読影を体験する貴重な機会となりました。フロア講師の先生方に気軽に質問ができる雰囲気があり、会場のあちこちで講師と参加者数名が PC を囲んでいる様子が印象的でした。

午後からの勉強会では特別講演として山本英一先生に「子どもを守るために：虐待医療の現状と課題、小児科から法医学への期待」、中村壮志先生に「頭部外傷の画像診断」のご講演を賜りました。特別講演の内容と深く関連する、虐待が疑われる頭部外傷の乳児例について、指定講演として三浦亘智先生に「福岡県児童虐待事件カンファレンス事業における AHT 乳児の画像診断」のご発表を頂きました。会場の都合により、17 時 30 分頃には閉会する必要があり、一般講演一題あたりの時間が 11 分（発表 8 分+質疑 3 分）とやや気忙しい進行となったことが反省点です。しかし、半日では時間が不足なほど多くの演題を頂戴し、活発な討論ができたともいえます。本研究会の発展が確信されるとともに、「法医画像」という学問分野への関心の高さが実感されました。

懇親会は松山市中心部のホテルレストランで開催、40 名のご参加を頂きました。勉強会で尽くせなかった議論の続きや異分野交流に盛り上りました。

ワークショップ開催にご尽力くださいました兵頭先生をはじめ諸先生方、勉強会開催にあたり細やかなご指導を賜りました事務局の楳野先生、ご参加の皆様に心よりお礼を申し上げます。また、事前準備から当日の運営までを担ってくれた教室員にこの場を借りて感謝します。

次回は令和 8 年 3 月 14 日、滋賀医科大学の一杉正仁先生が草津で開催される予定です。

死後画像読影ワークショップ
コーディネーター 兵頭先生ご挨拶



講義



画像読影ワーク（フロア 質疑応答）



死後画像勉強会
指定講演



懇親会

